

# 大西班全体会議

2023年02月01日

研究分担者 京都医療科学大学 霜村康平  
 国立がん研究センター中央病院 岡本裕之  
 研究協力者 東京ベイ先端医療・幕張クリニック 遠山尚紀

1

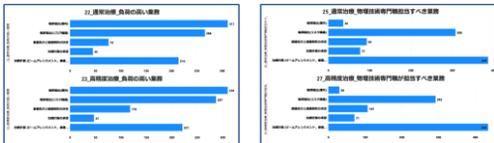
## 提言案の作成過程

- 本提言案では、認定の有無に関わらず放射線治療に携わる者の雇用状況、各業務に対する人材の過不足等を把握するため、放射線治療に従事する診療放射線技師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士等をまとめて「物理技術専門職」と表現している。
- 提言案は、大西班において実施した物理技術専門職を対象とした個人・施設アンケート結果 医師向け物理技術アンケートの結果をもとに、光子線治療、小線源治療、粒子線治療、教育の4つのグループにおいて議論頂き、定期的な都道府県地域担当者会議、放射線治療物理技術関連団体代表者会議等を通じて、ご意見を頂戴しながら、提言案としてまとめた
- 提言案は今後の会議の議論により変更になる場合がある

2

## 医師が物理技術専門職に求めるスキル

医師向け物理技術アンケート結果



放射線腫瘍症は、

- 輪郭描出(標的、リスク臓器)およびビームアレンジメントの負荷が大きい業務と感じている。
- 輪郭描出(リスク臓器)およびビームアレンジメント業務を物理技術専門職へのタスクシフト/シェアすることが妥当だと考えている。

物理技術専門職が本来担当すべき業務

リスク臓器の輪郭描出、ビームアレンジメント等の治療計画

3

## 放射線治療における人員配置状況

医師向け物理技術アンケート結果および物理技術専門職向けアンケート結果

人員配置状況

職種	回答者	医師	放射線業務 物理技師	品質管理/ 治療計画担当 物理技術専門職	看護師
人員が不足・ かなり不足している と回答した割合 (%)	治療部門長 (医師)	35	26	58	37
	物理技術専門職	34	21	62	46
増員希望 の割合 (%)	シミュレーション				
	治療計画		64		
	線量検証 品質管理		71		
	照射準備			41	
	照射業務				36

- 人員不足と回答した割合は、医師34~35%、照射担当技師21~26%、品質管理/治療計画担当物理技術専門職58~62%、看護師37~46%であった。回答者の職種によらずほぼ同様の結果であった。
- 物理技術専門職が担当する業務のうち増員希望の業務は、線量検証/品質管理担当者71%、治療計画担当者64%であった。

4

## 提言案：物理技術専門職の配置

施設調査結果から業務量算出 (579施設/全国7割)

IAEAのアプローチに基づき  
患者数、照射回数、装置数から  
必要な物理技術専門職数を算出

患者数	照射回数	装置数	必要な物理技術専門職数
1000	10000	1	1
2000	20000	2	2
3000	30000	3	3
4000	40000	4	4
5000	50000	5	5
6000	60000	6	6
7000	70000	7	7
8000	80000	8	8
9000	90000	9	9
10000	100000	10	10

提言案 物理技術専門職配置基準の導入  
 患者数・装置数・照射技術に応じた物理技術専門職FTE基準  
 各業務の担当物理技術専門職数基準

5

## 人員配置基準の妥当性アンケート結果報告

物理技術専門職人員配置基準	妥当性
放射線業務	0.00
治療計画	0.00
線量検証	0.00
照射準備	0.00
照射業務	0.00
品質管理	0.00
治療計画担当	0.00
物理技術専門職配置数	0.00

自施設の会計算回数、装置数を入力して算出された物理技術専門職配置数(人/年)は、適切でしたか？



回答数：48  
 人員配置基準は、多くの施設で適切

人員配置基準は、法的拘束力のある基準としてほしい  
 (基準を満たした施設が加算を算定できる)  
 今後、小線源治療、粒子線治療に関する  
 人員配置基準の作成、全国へ妥当性アンケートを実施を計画

6

### 提言案：品質管理体制



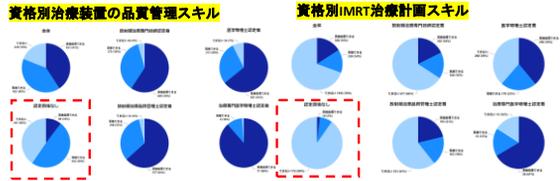
- 外部放射線治療装置、粒子線治療装置、HDR、LDRのQA実施率は、それぞれ0.69、0.87、0.67、0.44であった。粒子線治療のQA実施率が高いのは、品質管理業務に専従する技術者が配置されていることが一因として考えられる。外部放射線治療装置、HDR、LDRにおいては、品質管理を実施するための十分な人員が配置されていない状況にある。特に、小線源治療施設は増員希望割合が高かった。また、小線源治療は、小線源品質管理スキルを有する者が限定され個人的になりやすい状況がある。小線源治療・粒子線治療は、従事者数が少なく教育体制が十分に整備されていない。

**提言案**

品質管理業務量に応じた物技術専門職配置基準の導入

7

### 提言案：光子線治療



放射線治療物理技術認定資格を有しない者は、品質管理、治療計画を実施・指導できるものが非常に少ない

**提言案**

治療計画、品質管理の教育/研修を受けた能力のある物理技術専門職の配置

8

### 物理技術専門職のスキルの現状と提案

#### 物理技術専門職向けアンケート結果

物理技術専門職担当業務を「実施かつ指導できる者」の状況 (=スキルの保有者)

業務	シミュレーション	リスク評価・危険機器	治療計画 適量照射	治療計画 定位照射 IMRT	治療計画 物理技術 的検証	照射準備 データ登録	照射 Setup 治療台
実施かつ指導できる割合(%)	56	27	20	14	16	31	52
実施かつ指導できる人数(人)	1272	622	456	332	368	706	1359

治療計画業務を実施かつ指導できる物理技術専門職の人数は照射業務と比較して約1/3程度である。多くの施設で治療計画業務は医師が担当しており物理技術専門職へのタスクシフト/シェアは進んでいない。日常業務において治療計画業務を担当しているのが大きく影響。治療計画業務に従事する機会は施設により差がある

**提言案**

- 治療計画業務を医師から物理技術専門職へタスクシフト/シェアを推進
- リスク機器の輪郭描出・ビームアレンジメント等の治療計画業務を安全に実施できる人材を関連学会・団体が協働して教育/研修体制を構築する。

9

### 物理技術専門職のスキルの現状と提案

#### 物理技術専門職向けアンケート結果

- 放射線治療実施施設の約9割は、新人、資格取得者を対象にプリセプタ・プリセプティ教育、技能試験、講習会のような施設内研修を実施できていない。
- 一方で、新人、資格取得者に対する教育を目的に学会や外部機関等が実施する講習会への参加の推進は行われている。

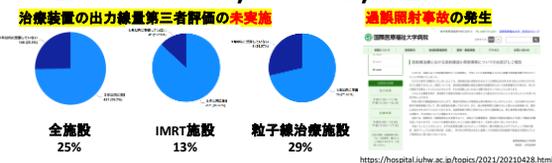
**提言案**

- 系統的指針に基づいた継続的な放射線治療物理技術に関する教育/研修体制を構築し、各施設で当該人材を確保、育成できる体制を整備
- 関連団体における新規認定・更新制度において、物理技術的業務に関するOJTやCPDなど欧米諸国が取り入れている教育手法を参考にして、個人がスキルアップできる環境を整備

OJT (On the Job Training、現任訓練)  
CPD (Continuous Professional Development、継続的に実施する専門的能力開発)

10

### 提言案：光子線、小線源、粒子線



- 放射線治療実施における必須条件と考える線量校正条件の出力線量第三者評価が全ての施設で実施されていない。
- 本邦において2000年頃に発生した放射線過照射の対策として各種放射線治療物理技術専門職の教育/認定が推進された。しかし、昨年放射線過照射が発生した。

**提言案**

光子線：「出力線量第三者評価」の実施の必須化  
小線源・粒子線：出力線量/線源位置等の第三者評価体制の構築

11

### 関連学会でのアンケート結果の発表

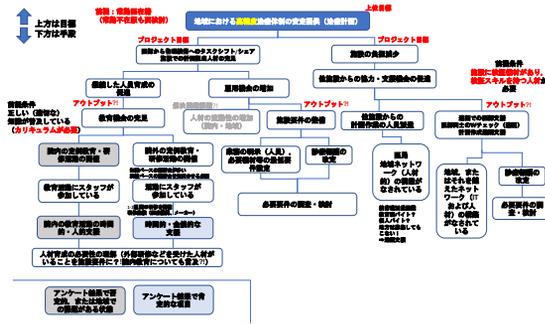
- 高精度部会@柏(2023/3/3-4)
  - 厚労研大西班による放射線治療業務に従事する専門資格者の能力調査 (霜村)
  - 光子線治療における業務量に関する国内アンケート調査報告 (遠山)
  - 粒子線治療における物理技術関連業務量の国内アンケート調査報告 (太田)
  - 本邦における放射線治療技術物理専門職のスキル維持に関わる教育の現状調査 (林)
- 小線源部会@神戸(2023/5/19-20)
  - 密封小線源治療における物理技術専門職の業務量と個人スキルに関するアンケート調査報告 (小島)

### 物理技術アンケート結果報告会の開催

日時 2023年3月8日(水) 18:30-20:00  
開催方法 Zoom

12

物理技術アンケートから課題抽出



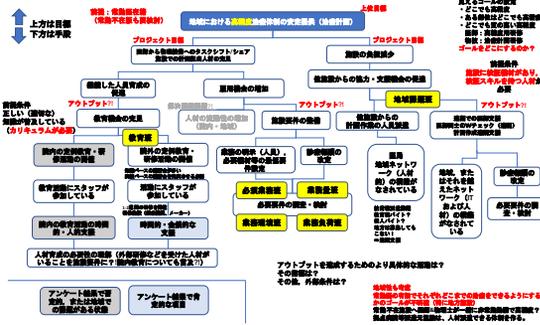
13

2023年度以降の物理技術研究計画

- 物理技術に関する研究分担者、協力者を班分けして活動
- 教育班（遠山）
  - 治療計画業務補助者の教育体制の構築
    - カリキュラム
    - 研修体制（Web研修、実地訓練、Web訓練）
- 業務量班（霜村）
  - 物理技術専門職、（医師、看護師等）の業務量調査
- 業務負荷班（黒岡）
  - 業務時間だけでは評価できない業務負荷について検討
- 必須業務班（岡本）
  - 治療計画関連業務の整理、施設要件化の検討
- 業務環境班（霜村）
  - 治療計画を補助するために必要な業務環境の検討
- 地域課題班（太田）
  - 地域の課題の抽出および解決策の検討

14

物理技術アンケートから課題抽出



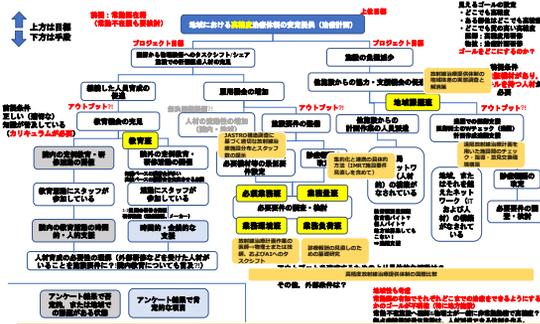
15

2023年度以降の物理技術研究計画

- JASTRO構造調査に基づく適切な放射線治療施設分布とスタッフ数の提示：中村和正
- 集約化と連携の具体的方法（IMRT施設要件見直しを含めて）：大西洋、溝脇尚志、遠山尚紀、霜村康平、岡本裕之
- 放射線治療提供体制の地域格差の実態調査と解消策：河原ノリエ
- 放射線治療計画作業の医師→物理士または技師、およびAIへのタスクシフト：大野達也、遠山尚紀、霜村康平、岡本裕之
- 核医学治療提供体制のあり方：東達也、精谷清剛、細野真
- 教育機会提供やピアサポート：内田伸恵
- 専従・有資格看護師の意義と職務：荒尾晴恵、華間朋子
- 遠隔放射線治療計画を用いた施設間のチェック・指導・意見交換環境構築：新藤正英
- 高精度放射線治療提供体制の国際比較：永田靖
- 診療報酬の見直しのための基礎研究（諸経費、人員、管理体制、環境要件、業務量調査）：大西洋、遠山尚紀、霜村康平、岡本裕之
- 患者の立場からあるべき放射線治療提供体制の在り方を検討する：小宮山真史
- 日本放射線腫瘍学会理事長として：宇野隆
- 適切な放射線治療利用のための施策（情報提供と認知を高める方法）：谷謙輔、木場律子

16

物理技術アンケートから課題抽出



17